



WMF 1500 F

Internal Storage

取扱説明書

日本語

はじめに

弊社のWMFコーヒーマシンをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

コーヒーマシン「WMF 1500 F Internal Storage」は全自動コーヒーマシンです。一人分の量からコーヒを抽出でき、コーヒを淹れることも、保管容器からコーヒを供給することもできます。



取扱説明書の指示に従ってください



- > 使用前に取扱説明書をお読みください。
- > 取扱説明書、特に安全上の注意事項と「安全性」の章の指示を遵守してください。
- > コーヒーマシンの警告注記に注意してください。
- > 取扱説明書はスタッフや全ユーザーがいつでも参照できるようにしてください。

⚠ 注意

取扱説明書の記号とアイコンに従ってください
▷ 22ℳ -ジ
安全性についての章を参照
▷ 6ℳ -ジ 以降



感電死の危険あり



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。

⚠ 警告

安全性についての章を参照
▷ 6ℳ -ジ 以降



設置・使用条件

- メンテナンス規定や「テクニカルデータ」の章にある規定の遵守を怠った場合、損害が発生しても一切責任を負いかねます。
- > 取扱説明書の指示に従ってください。
- > 試運転調整、メンテナンス、修理に係る作業はすべて、正規交換部品を使用する条件でWMFサービス担当者によってのみ行われることが許可されています。

重要

テクニカルデータ
▷ 89ℳ -ジ 以降
メンテナンス
▷ 77ℳ -ジ 以降

1	安全性	6
1.1	一般的な安全上の注意事項	6
1.2	使用目的	13
1.3	設置・使用条件	18
2	序章	20
2.1	コーヒーマシンの各部名称	20
	「供給可能な飲料」の画面	20
	用語集	23
3	操作	24
3.1	操作に関する安全上の注意事項	24
3.2	コーヒーマシンのスイッチを入れる	25
3.3	飲料供給	25
	飲料のキャンセル	25
3.3.1	保管容器からの飲料供給	26
3.3.2	淹れたて飲料供給	26
3.4	熱湯供給	26
3.5	供給口の高さ調整	27
3.6	特別ボタン (オフ ション)	27
3.7	ロック式豆ホッパー	27
3.8	コーヒーク受け	28
3.9	コーヒーク落とし (オフ ション)	28
3.10	ドリフトトレイ	29
3.11	コーヒーマシンのスイッチを切る	29
4	ソフトウェア	30
4.1	概要	30
	供給可能な飲料	30
	「供給可能な飲料」の画面の機能バー	30
	メインメニューの機能	31
	メニュー制御ボタン	31
	パネル上の通知	31
4.2	「供給可能な飲料」の画面	32
4.2.1	飲料ボタン	32
4.2.2	保管容器設定	33
4.2.3	機能バー	34
	言語の選択	34
	手動取り出し	34
4.3	セルフサービスモードでの供給可能な飲料の画面	34
4.4	お手入れ	35
	システムリセット	35
	クリーンロック	35
	説明	36
	設定	36
4.5	飲料	37
	概要	37
	容量と供給オフ ション	38
	レシピの変更	39
	コーヒークライタを選択	41
	テキストと画像	43
	抽出量の設定 - 保管容器	44

目次

4.6 操作オプション	45
操作要素	45
ボタンレイアウト	47
ボーストレクション	47
飲料プーレクション	48
飲料のキャンセル	48
ロゴ	49
4.7 インフォメーション	50
前回の抽出	50
タイマー	50
サービス	50
お手入れ	50
浄水フィルタと加味除去	50
プログラム	51
リモートサービス	51
4.8 会計	52
カウンター	52
自動販売機	52
外部会計	52
無料設定	53
4.9 PIN権限	53
クリーニング PIN	54
設定PIN	54
会計PIN	54
新しいPINを入力	54
4.10 タイマー	55
時刻/日付	55
サマータイム	55
時刻帯	55
タイマー	55
タイマー予定表とタイマーの設定	56
タイマー削除	56
タイマー日別概要	56
タイマーの入る時間を設定	57
ボタンレイアウト	57
クリーニングタイマー	58
保管容器操作モード	58
4.11 システム	59
プログラムステイプレイ	59
ディスプレイと照明	59
浄水フィルタ	61
温度	62
挽き目設定	62
抽出圧表示	62
ボーション	62
栄養成分情報	62
ボタンスーム	63
保管容器	63
デザインリユース	64
4.12 言語	64
4.13 USB	64
レシトをロードする	64
飲料のマークをロードする	64
レシトの保存	65

カウンターのエクスポート.....	65
HACCPエクスポート.....	65
データのバックアップ.....	65
データをリセットする.....	65
言語をリセットする.....	65
ファームウェアの更新.....	65
5 お手入れ	66
5.1 安全上の注意事項 お手入れ.....	66
5.2 クリーニング頻度の概要.....	68
5.3 クリーニングプログラム.....	69
5.3.1 システムクリーニング.....	69
5.3.2 クリーニングタイマー.....	70
5.4 手動クリーニング.....	71
5.4.1 熱湯/スールの清掃.....	71
5.4.2 コーヒー供給口のクリーニング.....	71
5.4.3 ドリップトレイのクリーニング.....	72
5.4.4 外装のクリーニング.....	72
5.4.5 操作パネルクリーニング (クリーンロック).....	73
5.4.6 コーヒーカス受けのクリーニング (挽いた豆のスライド / オプション).....	73
5.4.7 コーヒー豆ホッパーのクリーニング.....	74
6 HACCPクリーニングコンセプト	75
7 メンテナンスと加減除去	77
7.1 メンテナンス.....	77
7.2 WMF サービス.....	77
8 メッセージと注意事項	78
8.1 操作上の通知.....	78
8.2 エラー通知と不具合.....	79
8.3 エラー通知なしの不具合.....	82
9 安全性と保証	83
9.1 コーヒーマシンに対する危険.....	83
9.2 ガイドライン.....	85
9.3 管理責任者の義務.....	86
9.4 保証請求.....	88
付録: テクニカルデータ	89
コーヒーマシンのテクニカルデータ.....	89
付録: アクセサリーとスプレッドシート	93
索引	94

1 安全性

誤った使用法

 **警告**

- 安全上の注意事項に従わないと、大怪我をすることがあります。
 - > すべての安全上の注意事項に必ず従ってください。

1.1 一般的な安全上の注意事項

1-ガー-に対する危険性

WMFの製品は、安全性に最大限配慮していることが大きな特徴です。以下に記載されている項目が守られていない場合は安全装置の効果が保証されません:

 > 使用前に取扱説明書をお読みください。

 **注意**

 > 高温になったマシン部分には触れないでください。

> コーヒーマシンが正しく機能しないか損傷している場合は絶対に使用しないでください。

> 完全に組み立てられている状態でのみ、コーヒーマシンを使用してください。

> 内蔵されている安全装置はどのような状況においても、絶対に変更しないでください。



> ホーターは使用を開始する前に取扱説明書をよく読み、誤った操作による怪我をしないようにしてください。



- > マシンを8歳未満のお子様や身体が不自由な方、知的能力の弱い方、経験や知識不足の方が使用する場合は、必ず十分な使用経験と知識をお持ちの方がそばに付き添い、正しい知識や指示でマシンを安全に使用し、発生するリスクを理解した状態でお使いください。
- > お子様にマシンで遊ばせないでください。
- > クリーニング やユーザーメンテナンスをお子様にさせないでください。

⚠ 注意

安全装置が搭載されていても、コーヒーマシンの使用を誤ると危険です。怪我や健康被害のおそれを避けるために、コーヒーマシンを使用する際には以下の指示に従ってください。

 警告



感電死の危険あり



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
 - > マシン外装は絶対に開けないでください。
 - > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。
 - > 電源ケーブルが損傷しないようにしてください。曲げたり、押しつぶしたりしないでください。
 - > 破損した電源ケーブルは絶対に使用しないでください。破損した主電源ケーブルの使用は危ないので、危険を避けるために製造者またはサービス担当者により交換を受けてください。
 - > 電源プラグを水や液体に浸けないでください。水や液体を電源プラグにかけないでください。プラグは常に乾燥した状態に保ってください。
 - > メンテナンスや修理の前にコーヒーマシンを電源から離してください。電源から離すにはプラグを引き抜きます。メンテナンスまたは修理を行う者は電源が入っていないことを必ず目視ではっきりと確認できればなりません。



火傷の危険/火傷のおそれあり



- ・加熱中、熱湯がノズルから漏れることがあります。
- ・飲料供給中に、高温の液体が供給口から流れ出ます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
- > 飲料の供給中は、供給口の下に触れないでください。
- > 供給直後は供給口に触れないでください。
- > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意



怪我のおそれ

- ・長い髪の毛や裾の長い服はグラインダーのハット部に巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
- > 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

⚠ 注意



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり

 **注意**



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- 操作パネルを閉じるときは、手や指が挟まれるおそれがあるので注意してください。
 - > コーヒーグランドーや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。
 - > 操作パネルを閉じるときは注意しながら行ってください。
 - > 稼働する供給口のエリアを握らないでください。



健康被害のおそれ

 **注意**

- 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > 豆ホッパーは、所定の用途に適した材料で充填するようにしてください。

**健康被害のおそれ**

- 洗浄剤とクリーニング[®] 顆粒は刺激性です。
- > 洗剤のパッケージに記載されている注意事項に従ってください。
- > 計量装置のクリーニング[®] 顆粒が詰まった場合、WMF サービスにご連絡ください。

⚠ 注意**健康被害のおそれ/
刺激・火傷のおそれあり**

- クリーニング[®] 中に供給口から高温のクリーニング[®] 液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- ドリップ[®]トレには高温の液体がたまっていることがあります。
- > クリーニング[®] 中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。
- > ドリップ[®]トレは慎重に動かしてください。

⚠ 注意

 注意



スリップの危険あり



- コーヒーマシンの誤った使用、または不具合によって水漏れが発生する恐れがあります。これらの液体によるスリップの危険があるため、注意してください。
 - > コーヒーマシンの密閉性が保たれているか、水漏れがないか、定期的にチェックしてください。
-

1.2 使用目的



誤った使用法



警告

- 用途と異なるコーヒーマシンの使用は、怪我を招くおそれがあります。
➢ コーヒーマシンは本来の使用目的のみで使用してください。
- WMF 1500 F Internal Storageは、コーヒーまたは熱湯に対応するコンテナに供給するためのものです。
- 使用するコーヒー豆は、コーヒーマシンでの抽出に対応できるものでなければなりません。消費期限を過ぎた製品は加工に使用しないでください。
- 本機は業務用での使用を想定し設計されており、売店や事務所、レストランやホテル、または同様の使用環境にある専門員や教育を受けたユーザーによる使用を意図しています。
- この機器は、ホテルやレストラン、またはそのような設置場所で大容量の給仕を行う商用での使用を目的とした設置を意図しています。本機の稼働中に責任者が現場にいる場合には、本機をセルフサービスの場所に設置できます。この機器は、専門スタッフによってのみ操作可能です。
- ホッパレーターは使用を開始する前に取扱説明書をよく読み、誤った操作による怪我をしないようにしてください。

設置場所

- 本機はよく見える場所に設置してください。
- 本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。
- 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
- 水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。
- コーヒーマシンを屋外で使用しないでください。

給水接続

- メインコックとフィルター（メッシュ幅0.08 mm）付き3/8インチのホース接続（現場側で用意）。2 L/分の時の最小水圧0.2 MPa（2 bar）。最高水圧0.6 MPa（6 bar）。⁽¹⁾



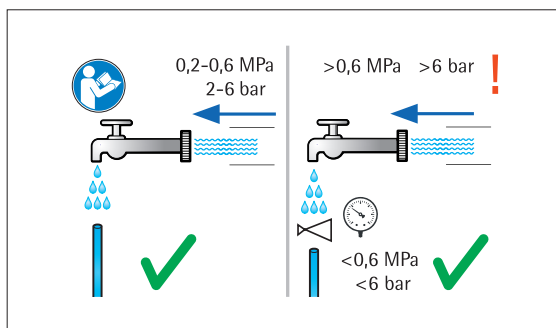
注意事項

圧力調整の調整ルチンを機能させるため、機械接続部の前圧は6 L/分で2.4 bar必要です。これより圧力が低いと、圧力差が足りないため、設定値に応じて圧力調整を行うことができません。

注意事項

- ⁽¹⁾ 給水部セットと水フィルターを介して起きる圧力損失を考慮します。これにより、1時間あたりの最大出力に必要な機械側の水圧は6 L/分で0.2 MPa（2 bar）を確保できます。

重要！ 現地の水圧が0.6 MPa（6 bar）を超える場合には、最大0.6 MPa（6 bar）に設定されるよう、必ず減圧弁をあらかじめ作動させる必要があります。



- 最大供給温度 35 °C。
- コーヒーマシン、直結給水接続用キットまたは新しい浄水フィルターと一緒に納品されるホースセットを使用する必要があります。使い古したホースは再使用しないでください。

ドレン接続

コーヒーマシンの排水パイプのないマシンに対応しています

- コーヒーマシンを給水に接続する際、EN 61770, ZA.5「Air break to drain」(ドレンへのエアブレイク)に従い、通気排水管にファンネルサイフォンを取り付ける必要があります。
- 排水口(アングル付きファンネルサイフォン)が遮るものなく垂直に取り付けられていることを確認してください。排水ホースの指定傾斜(2%)を守ってください。
- 設置場所での廃水接続に係る準備作業は、一般的に適用される法令および国・地域で規定される法令に従って行ってください。

周辺温度

- 環境温度: +5 °C ~ +35 °C

使用

- 本機は必ずお手元の取扱説明書に従って使用してください。取扱説明書と異なったり、取扱説明書から逸脱したりする使用は、不適切とみなされます。これにより損傷が発生しても、製造者は一切責任を負いかねます。
- **WMF 1500 F Internal Storage**は、いかなる状況であってもコーヒ-または熱湯以外の何らかの液体(飲料、クリーニング)を加温または供給するために使用してはなりません。

衛生

- コーヒーマシンは、支障なくお手入れやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。
- 事務所やフロアでの使用など、セルフサービスでコーヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコーヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフがお手入れ措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

1.3 設置・使用条件



火災のおそれ/事故のおそれあり

- > テクニカルデータ の章で規定されている設置・使用条件は遵守しなければなりません。
- > マシンのプラグ を差し込む前に、接地する側の電源電圧と機銘板に記載されている仕様情報が対応していることを確認してください。

警告

テクニカルデータ
▷ 89ℳ -ジ 以降



設置・使用条件

- > コーヒーマシンは霜のつかない屋内でのみ使用します。
- > コーヒーマシンを5 ℳ 以下の温度環境で輸送または保管していた場合は、試運転調整を行う前に必ず5時間以上室内に置いて部屋の温度に馴染ませてください。
- > 休みの(数日/数週間)後でマシンの運転開始を再度行う前に、クリーニング プログラム を2回以上実行することを推奨します。

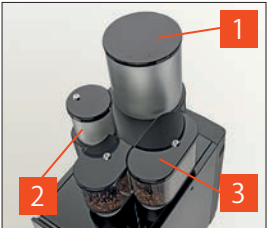
重要

テクニカルデータ
▷ 89ℳ -ジ 以降
メンテナンス
▷ 77ℳ -ジ 以降

電気接続、給水接続、排水接続等の、現場側での準備作業は、マシンの管理責任者が手配しなければなりません。一般的なものから国・地域で規定される法令に注意して認定設置者により設置を行ってください。WMF サービスエンジニアが担当できるのは、用意された接続部にコーヒーマシンを接続する作業だけです。WMF サービスエンジニアによる現場での据付作業は認められていないため、エンジニアは据付の実施については責任を負いかねます。機器の接続と使用開始の作業は必ずWMF サービスが行います。

2 序章

2.1 コーヒーマシンの各部名称



「供給可能な飲料」の画面



ヘッドライン

機能バー

- 1 保管容器
- 2 クリーニング 顆粒ホッパー
- 3 コーヒー豆ホッパー (最大 2 つまで)、ロック可能
- 4 操作パネル
- 5 熱湯ノズル
- 6 コーヒーカプ受け
- 7 ドリップトレイ
- 8 コーヒー供給口
- 9 サイドライト/イベント表示
- 10 飲料ボタンと設定用タッチパネル
- 11 オン/オフスイッチ

「供給可能な飲料」の画面

- 12 保管容器用設定 (設定と残量表示)
- 13 飲料キー コーヒー (カップ、ホット、シヤグ)
- 14 飲料キー 2つ目の豆タイプ、例: デカフェ (カップ、ホット、シヤグ)
- 15 飲料キー 熱湯 (カップ、ホット)
- 16 メニューボタン (メインメニューを開く)
- 17 言語選択 (国旗)

パネル上のボタンやボタンは設定やマシンモデルにより異なります。

ここに画像表示する機能は例です。

ソフトウェア > 30°C - 以降

取扱説明書の記号とマーク

安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度から重度の怪我を負うことがあります。

警告

安全性についての章を参照
▷6ページ以降

安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度の怪我を負うことがあります。

注意

操作に関する安全上の注意事項
▷24ページ
安全上の注意事項 お手入れ
▷66ページ
安全性についての章を参照
▷6ページ以降



感電



スリッパの危険あり



指などが挟まれるおそれ



高温の表面



物損についての注意事項

- ・ コーヒーマシンに対して
- ・ 設置場所に対して
- > 必ず取扱説明書の指示に従ってください。

重要

保証の章に注意
▷88ページ以降
テフロンコート
▷89ページ以降



注意事項/ヒント

- ・ 安全な取り扱いのための注意事項や、操作を容易にするためのヒントが記載されています。

注意事項

ヒント

用語集

用語	解説
•	• 箇条書き、選択マ [°] ション
※	※ 各作業ステッ [°]
斜字テキスト	コーヒーの [°] 状態の説明および/または自動ステッ [°] の解説
保管容器	保管容器
容量	例えば：浄水フィルタ処理能力（ℓ）
挽いた豆のスライ [°]	▷コーヒーカス落とし、28 [°] ージ [°]
淹れたて	淹れたて
湿らし行程	香りを強く出すために、実際に抽出を行う前にコーヒーに少量の熱湯が注がれます。
硬度	°dKHで表示水の硬度は、飲料水に含まれるカルシウムの量を表します。
飲料供給	コーヒーまたは熱湯の供給（お茶用など）
コーヒー粉分離装置	コーヒーカスを回収する機器
ジ [°] ェット抽出	コーヒー粉を多く使用して素早く淹れるための抽出プ [°] ロセス
セルフサービスモード [°]	セルフサービス
デ [°] カフェ	デ [°] カフェのコーヒー
メインコック	止水栓、ア [°] ンガ [°] ル弁
リ [°] ンス	中間的な洗浄

3 操作

3.1 操作に関する安全上の注意事項



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 加熱中、熱湯がノズルから漏れることがあります。
- 飲料供給中に、高温の液体が供給口から流れ出ます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 飲料の供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 6ページ以降



健康被害のおそれ

- 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > 豆乳パターは、所定の用途に適した材料で充填するようにしてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 6ページ以降



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- > コーヒーグライnderや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。

⚠ 注意

3.2 コーヒーマシンのスイッチを入れる

※ 操作^パ 祉を上 に動かす

操作^パ 祉の裏、右側にオン/オフスイッチがあります。

※ 音が鳴るまでオン/オフスイッチを押します

コーヒーマシンのスイッチが入り、加熱がスタートします。

ホットリンスが自動的に始まります。

コーヒーマシンで飲料供給の準備が整ったら、^パ 祉に供給可能な飲料の画面が表示されます。

タイマーでコーヒーマシンの電源を入られます。



PINアクセス管理

▷PIN 権限

53^パ -ジ

タイマーの入る時間を設定

▷タイマー

57^パ -ジ

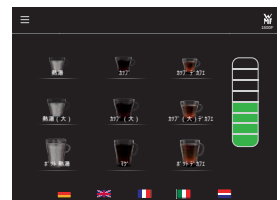
3.3 飲料供給

飲料^ボ タを押すと、設定した飲料の供給が開始されます。

- ボタン点灯 = 供給可能
- キー消灯 = 供給不可/^ボ タが無効

※ 適切なサイズ^ス の容器を対応する/ス^ス ルの下に置きます

※ 希望の飲料^ボ タにタッチします



ボ タンレイアウト

▷操作オブ ジョン

47^パ -ジ

飲料のキャンセル

※ タッチした飲料^ボ タをもう一度タッチ

飲料のキャンセル

▷操作オブ ジョン

48^パ -ジ

3.3.1 保管容器からの飲料供給

- * 適切なサイズ[®]の容器をコーヒーノズルの下に置きます
 - * 希望の飲料ボタン[®]にタッチします
- コーヒーは、飲料キーの設定に応じて、各種分量で抽出されます。

飲料サイズ[®]/量の設定
▷ 飲料
378° -ジ[®]

設定可能なオプション: シングルカップ、ポット、ジャグ。
保管容器にコーヒー抽出中、同時に保管容器から飲料を供給することはできません。
保管容器モード[®]が有効になっていない場合、コーヒー飲料は淹れたてが供給されます。

3.3.2 淹れたて飲料供給

装備(グラインダー[®]-1台または2台)によっては、2台目のグラインダー[®]から淹れたてのコーヒーを抽出できます。保管容器モード[®]が有効になっていない場合、コーヒー飲料は標準グラインダー[®]から淹れたてが供給されます。

- * 適切なサイズ[®]の容器をコーヒーノズルの下に置きます
 - * 希望の飲料ボタン[®]にタッチします
- コーヒーは、飲料キーの設定に応じて、各種分量で抽出されます。

飲料サイズ[®]/量の設定
▷ 飲料
378° -ジ[®]

設定可能なオプション: シングルカップ、ポット、ジャグ。

3.4 熱湯供給

- * 熱湯の供給口の下に適切なサイズ[®]の容器を配置します
 - * 熱湯のボタン[®]をタッチする
- 設定した供給オプション[®]に応じて供給が始まります。



3.5 供給口の高さ調整

供給口は取り外し式です。供給口を取り外すと、調整範囲が大きくなります。これにより、ジャグを差し込み、飲料を入れられるようになります。

調整範囲

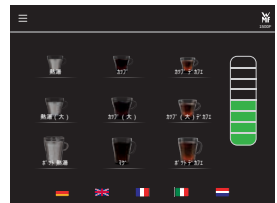
- コーヒー供給口: 165～220 mm
- 熱湯ノズル: 165～210 mm

※ 供給口をつかんで引き抜きます



3.6 特別ボタン (オプション)

専用キーにはオプションで、言語別に選択を5種類まで設定できます。



言語の設定と別選択
▷ 言語
46ページ

3.7 ロック式豆ホッパー

- ホッパーは、できるかぎり適時に補充してください。
- 製品の鮮度を維持するため、ホッパーには最大でも一日分しか入れないでください。



- 異物が混入するとコーヒーグラインダーが破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
▷ 従って、コーヒー豆ホッパーに異物が混入しないように注意してください。

重要

保証の章に注意
▷ 88ページ以降

3.8 コーヒー受け

コーヒー受けには、使用済みの挽いたコーヒーが排出されます。コーヒー受けを空にする必要がある場合、パネル上にその旨の通知が表示されます。

コーヒー受けが取り外されている間、飲料供給は不可能となります。

コーヒー受けの容量はコーヒー粉約450 gに対応しています。

※ コーヒー受けを外す

※ コーヒー受けを空にして再びセット

※ プロセスをパネル上で確定する



コーヒー受けのクリーニング
▷手動クリーニング
73ページ



- コーヒー受けを空にせずに設置すると、コーヒーがあふれ出ます。コーヒーマシンが汚れ、マシンの損傷につながるおそれがあります。

▷ コーヒー受けを設置するときは、常に空の状態を設置してください。

▷ コーヒー受けを上手く設置できないときは、ダクトにコーヒーが残っていないかチェックし、残っている場合には取り除いてください。

3.9 コーヒー落とし(オプション)

コーヒーマシンにはコーヒー落としを取り付けることができます。このタイプでは、コーヒー受けとコーヒーマシンの底に開口部が設けてあり、現場のマシンカウンター台の開口部に続いています。コーヒーは、マシンカウンター台下にある個別容器へと排出されます。

重要

保証の章に注意
▷88ページ以降

重要

挽いた豆のスライドを毎日クリーニング
▷手動クリーニング
73ページ

3.10 ドリップトレイ



火傷のおそれ



- ・ ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > ドリップトレイは慎重に動かしてください。
- > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。

排水用接続部があるコーヒーマシンでは、ドリップトレイも取り外せます (クリーニングのためなど)。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 68° -ジ° 以降
ドリップトレイは毎日クリーニング
お手入れ
▷ 66° -ジ° 以降



3.11 コーヒーマシンのスイッチを切る



衛生面に注意

- ・ コーヒーマシンの中で有害な細菌が繁殖することがあります。
- > コーヒーマシンのスイッチを切る前に必ず毎日のクリーニングを行ってください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 68° -ジ° 以降
取扱説明書に従ってコーヒーマシンをクリーニングしてください。
お手入れ
▷ 66° -ジ° 以降



取扱説明書を確認

- ・ 取扱説明書の指示に従わずにマシンを使用して発生した損傷については、保証は適用されません。

重要

保証の章に注意
▷ 88° -ジ° 以降

- * 操作パ° 祉を上にも動かす
操作パ° 祉の裏、右側にオン/オフスイッチがあります。
- * 信号音が鳴るまでオン/オフ° タンを短く押す
コーヒーマシンのスイッチが切れます。
- * 主電源からプラグ° を抜く
- * 水道のメインコックを閉める



PIN° タン管理
▷ PIN 権限
53° -ジ°

4 ソフトウェア

- 
- 飲料設定の際には、コーヒーマシンの操作についてのものと同様の安全上の注意事項に従ってください。
 - > 「操作に関する安全上の注意事項」に従ってください。

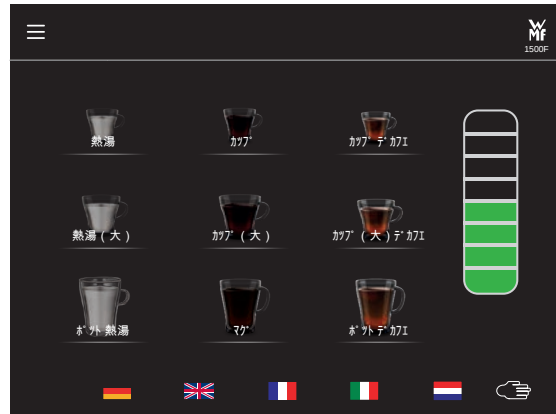
 **注意**

操作に関する安全上の注意事項
▷24ページ

4.1 概要

供給可能な飲料

32ページ



ホットディスプレイ
▷操作ボタン
47ページ

パネル上のボタンやホットは設定やマシンモデルにより異なります。

「供給可能な飲料」の画面の機能バー

32ページ

 言語

 手動取り出し

メインメニューの機能

35℃ -3℃ 以降

お手入れ
35℃ -3℃飲料
37℃ -3℃操作オプション
45℃ -3℃インフォメーション
50℃ -3℃会計
52℃ -3℃PIN権限
53℃ -3℃タイマー
55℃ -3℃システム
59℃ -3℃言語
64℃ -3℃USB
64℃ -3℃

メニュー制御パッド



メインメニュー/戻る



値/設定の確定



PIN入力



値/設定の削除



次へ/開始



飲料テスト



設定のリート



戻る



設定の保存



キーボード表示

パッド上の通知



イベント/エラー通知

4.2 「供給可能な飲料」の画面

「供給可能な飲料」の画面は、コーヒーマシンのオプションや個々の設定によって異なります。

4.2.1 飲料ボタン

供給可能なすべての飲料ボタンで照明が点灯しています。

ディスプレイ上に、設定されているすべての飲料が表示されます。中央の操作パネル下にコーヒーノズルがあります。対応飲料サイズ：

- カップ、ホット、シヤグ - 保管容器
- カップ、ホット、シヤグ - 淹れたて

お湯の供給口は左側にあります。

対応飲料サイズ：

- カップ、ホット、シヤグ



例：コーヒーカップ（大）
キーレイアウト
▷ 操作オプション
47ページ

4.2.2 保管容器設定

＊ 保管容器キーをタップすると
保管容器用メニューが開きます。

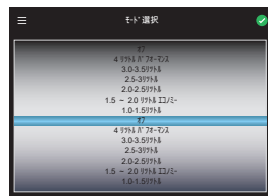
保管容器の中の希望は動作モードにより設定されます。

操作モード	1～1.5リットル	1.5～2リットル	2～2.5リットル
目標量	1.5リットル	2リットル	2.5リットル
抽出量	0.5リットル	0.5リットル	0.5リットル
抽出後基準値	1リットル	1.5リットル	2リットル
取外ロック	0.5リットル	0.5リットル	0.5リットル

操作モード	2.5～3リットル	3～3.5リットル	4リットル
目標量	3リットル	3.5リットル	4リットル
抽出量	0.5リットル	0.5リットル	0.5リットル
抽出後基準値	2.5リットル	3リットル	3.5リットル
取外ロック	0.5リットル	0.5リットル	0.5リットル



保管容器キー



保管容器抽出量の設定

システム
63℃ -ジ

4.2.3 機能バナー

言語の選択

国旗のアイコンで、使用する希望の言語を選択できます。



言語の選択
▷操作ボタン
46ページ

手動取り出し

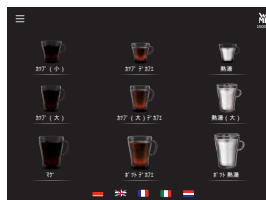
手動取り出しで、計量された分量ではなく好きな量で保管容器からコーヒーを供給できます。



4.3 セルフサービスモードでの供給可能な飲料の画面

セルフサービスモードで利用可能な飲料が「供給可能な飲料」の画面に表示されます。

表示は、装備の内容により異なります（ケラインター-1台または2台）。

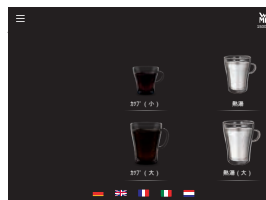


供給可能な飲料の画面
セルフサービスモード（ケラインター-2台）
▷ソフトウェア
45ページ

供給ボタン

個別の飲料を供給するか、ホット抽出をすることも可能です。

選択ボタン: カップ、ホット。



供給可能な飲料の画面
セルフサービスモード（ケラインター-1台）
▷ソフトウェア
45ページ

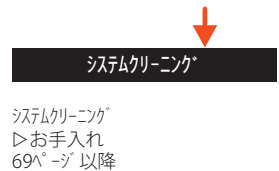
4.4 お手入れ



メニュー制御パッド
 ▷概要
 31℃-ジ
 お手入れ
 ▷66℃-ジ以降
 HACCPクリーニングコンセプト
 ▷75℃-ジ以降

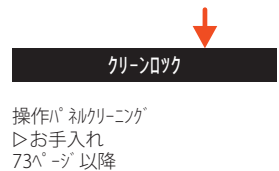
システムクリーニング

ここでは、システムクリーニングの後にコーヒーマシンの電源を切るかを選択します。
 選択オプション:「電源を切る」「電源を切らない」



クリーンロック

※ **クリーンロック** をタッチする
 15秒間のカウントダウンが始まります。
 この間にタッチパッドのクリーニングを行ってください。
 最後にタッチしてから15秒後に、タッチパッドが再び有効になります。



説明

ここでアニメーションを通して、清掃の仕方を確認できます。

説明

クリーニング 間隔概要
▷ お手入れ
68° - ジ

設定

スイッチ オフ リス

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効

有効 コーヒーマシンの電源を切ると、スイッチ オフ リスが実行されます。

設定

4.5 飲料

概要



供給テスト

大半の飲料設定では、レシピ°を保存する前に新しい設定で飲料供給テストを行えるようになっています。



＊ 設定を希望通り変更

＊ 「供給テスト」パッド°をタッチ

新しい設定値に従って飲料が供給されます。

＊ 飲料が希望の通りであれば、「レシピ°を保存する」のマークをタップ°します

レシピ°が保存されます。



例: ユーヒーカップ° (小)

レシピ°の保存

変更されたレシピ°が保存されます。



レシピ°をロート°する

保存されているレシピ°が飲料ホ°タンにロート°されます。

＊ 飲料ホ°タンにタッチ

＊ 「レシピ°をロート°する」パッド°をタッチ

サブ°メニューが開きます。

＊ 希望するレシピ°をマークする

＊ 「レシピ°の保存」パッド°をタッチ

飲料ホ°タンに新しく選択したレシピ°が割り当てられます。



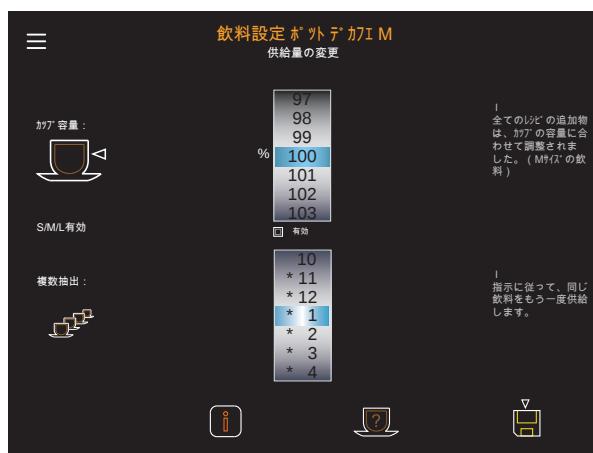
容量と供給ボタン



カップ 容量

希望するカップ 容量を設定します。レベルは適切に調節されます。

100%はこれまで保存されている値に相当します。



供給ボタン

スタート・ストップ

供給は設定量に達するまで行われます。途中で供給を中止するには、ボタンをもう一度押してください。

供給

設定した量が供給されます。供給ボタンを熱湯にも使用可能です。

フリーフロー

熱湯は、キーを押している間供給されます。

スタート・ストップ フリーフロー

ボタンを軽く押すとスタート・ストップ 供給となります。

ボタンを1秒間以上押すと、フリーフロー供給が開始されます。

供給ボタンは熱湯に設置可能です。

レシピの変更

飲料の設定 - 淹れたて

- * 淹れたてのアイコンをタップします (FB)
- * 希望の飲料がタにタッチします
- * ハット  をタッチする



メニュー制御ハット
▷概要
31ページ



VB

FB

VB (保管容器)
FB (淹れたて)

工場出荷時設定で用意されている追加オプション

レシピに追加できる追加オプションはここに表示されます。

- * 希望する追加物を押し、レシピ作成でもう一度希望する位置を押し
- 追加物がすぐに希望する位置に追加されます。

追加物の削除

マークのついた追加オプションを現在のレシピ構成から削除します。



追加オプションの変更

※ 追加オプションをマークし、「追加オプションの変更」をタッチ追加オプションの変更のメニューが開きます。
選択した追加オプションの設定オプションが表示されます。
保存されたデータと現在のデータが表示されます。



現在の値



サービスエリアによって保存された値



工場出荷時の設定値

コーヒー粉の量

単位:グラム(g)



水量

単位:ミリリットル(ml)



コーヒーの品質

コーヒーの抽出は、品質レベルによって変化します。
品質レベルを高くするほど、抽出されるコーヒーの香りと味が強まります。



品質レベル

- 1 7°以後、挽いたコーヒーが水を含むようにするためのスプレースが与えられます。
- 2 7°以後から抽出が始まります。
- 3 7°以後、湿らし行程に入ります。
- 4 7°以後と湿らし行程後、2回目の7°レシをします。
- 5 品質4と同様ですが、さらに強くウェット7°レシします。
- 6 品質5と同様ですが、さらに強くウェット7°レシします。
- 7 品質6と同様ですが、さらに長くウェット7°レシします。

注意事項!

抽出用熱湯がわずかな状態で非常に細かいコーヒー粉を使用すると、品質レベルが高い場合は抽出用熱湯エラーが発生することがあります。

コーヒーグライNDERを選択

コーヒー粉の挽く分量全部は10に相当します。全分量は各種グライNDERを合わせることができます。そのため、様々な個別のレシが可能で



飲料の設定 - 保管容器



保管容器からの飲料には供給量のみ設定できます。

- * 保管容器のアイコンをタップします (VB)
- * 希望の飲料ボタンにタッチします
- * ハット  をタッチする



VB (保管容器)
FB (淹れたて)

保存されたデータと現在のデータが表示されます。



現在の値



サービスエンジニアによって保存された値



工場出荷時の設定値

水量

単位:ミリリットル (ml)



テキストと画像



メニュー制御パッド
▷概要
31ページ

テキストと画像

ここで飲料の名称と飲料ボタンの画像を設定します。
* キーボードパッドにタッチしてキーボードを有効にします

個別の飲料画像を読み込む
▷USB
64ページ

備考

飲料についてのメモはここに保存できます。

抽出量の設定 - 保管容器



保管容器設定
▷「供給可能な飲料」の画面
33ページ



ここでは、保管容器の抽出量を決めて、保存できます。

抽出ユニットにはコーヒー粉を最大28 g入れることができます。

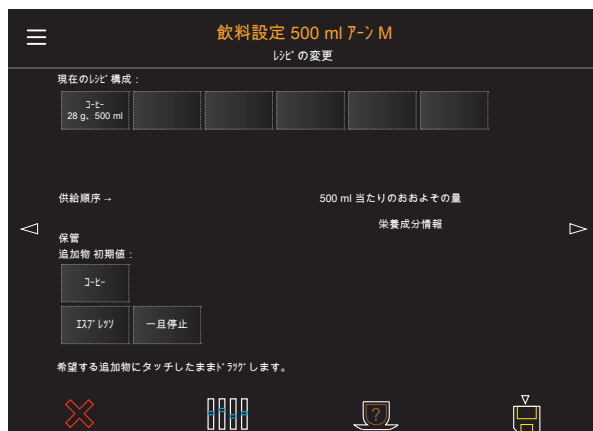
これに応じて抽出量を調整する必要があります。

標準値: 抽出量 0.5 L

* パッド  をタッチする

* 希望の飲料が ンにタッチします

* パッド  をタッチする



4.6 操作オプション



操作要素

「供給可能な飲料」の画面で一部の機能を無効にして操作することができます。無効にしておくと、この機能と該当するパッドが画面に表示されません。

セルフサービスモード（セルフサービス）

機能を無効にして、セルフサービスモードで操作することができます。この無効になっているパッドとその機能は、セルフサービスモードでは表示されません。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: ☒ 無効

セルフサービスモードが有効になっている場合、以下の設定が同時に設定されます。

- ・ メニューパッド: 遅延
- ・ エラー表示: 記号
- ・ 飲料のキャンセル: 無効
- ・ 言語プル選択: 無効
- ・ 保管容器設定: 無効
- ・ 保管容器手取り出し: 無効

メニューパッド

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: ☒ 有効

有効 メニューパッドにタッチすると、メニューパッドが直ちに反応します。

無効 何もないところを二回押すとメインメニューに戻ります。

カラー表示

カラーはパネルのヘッドーにおいて、様々な色で通知されます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値:  有効

有効 カラーはテキストでパネル上に表示されます。

言語プリ選択

言語と国旗のプリ選択を可能にするかどうか、ここで設定します。「言語プリ選択」をここで有効にできます。

言語のプリ選択
▷ 操作エレメント
64ページ

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値:  無効

保管容器設定 - セルサーヒースモード

「残量表示」には、設定した保管容器の抽出量が表示されます。

* パッド をタッチする
メニューが開きます。



保管容器設定
▷ 「供給可能な飲料」の画面
33ページ

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値:  無効

有効 「保管容器設定」のパッド は、「供給可能な飲料」画面上の機能メニューに表示されます。

保管容器設定 - 標準モード

「残量表示」には、設定した保管容器の残量が表示されます。

＊パッドをタッチする
メニューが開きます。

選択オプション: ・有効 ・無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

有効 残量表示をタップすると、保管容器設定を開くことができます。



保管容器設定
▷「供給可能な飲料」の画面
33ページ

ホットレアウト

種々の標準ホットレアウトがここに保存されており、選択できるようになっています。

↓
ホットレアウト

ホットセレクション

選択オプション: ・有効 ・無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

有効 飲料の選択後、コーヒーのタイプと飲料サイズを選択できます。
コーヒーのタイプの名称とサイズは変更できます。
(コーヒーのタイプとS/M/L)。
選択オプションは各種装備により異なります。

- ・サイズ 1、2、3
- ・ホットショナー 1、2

セルフサービスモードのために、いくつかの機能を無効にすることができます。

無効にしておくと、機能と該当するパッドが画面に表示されません。

↓
ホットセレクション

ホットセレクション機能に使用するオプションをメニュー「システム」で有効にします。
システム
▷59ページ

飲料プレレクション



飲料プレレクション

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

有効 事前に選択された飲料はさらに押さなくても供給されます。
ヘッドラインには「飲料プレ選択有効」と表示されます。

飲料のキャンセル



飲料のキャンセル

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

有効 飲料ボタンを再度押すと、飲料供給を中断できます。

□



□

メーカーの□

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効

有効 メーカー□ は、供給可能な飲料の画面上の右上に表示されます。

お客様の□

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☐ 無効

有効 オプションが「有効」に設定されており顧客□ が読み込まれている場合、顧客□ は供給可能な飲料の画面でヘッドライン中央に表示されます。

お客様の□ をロード

* 顧客□ 入りの USB スティックを挿し込みます

* 顧客□ を読み込みます

顧客□ をCoffeeConnectで読み込むこともできます。

顧客□ (大)

□ は最大 80 ピクセルまで許容されます。それより大きい□ は自動でこの大きさにサイズ変更されます。

4.7 インフォメーション

インフォメーションメニューの選択オプションは以下の通りです。



前回の抽出

前回の抽出に関するインフォメーション。



タイマー

1週間のタイマー設定が呼び出されます。ここにはすべてのスイッチオン・オフ時刻が表示されます。



サービス

サービスセンターの住所、コーヒーマシンのシリアルナンバー、バージョン、ネットワークに関する情報



お手入れ

コーヒーマシンのプログラムから行ったクリーニングとお手入れの記録が表示されます。



浄水フィルタと加糖除去

浄水フィルタの残り容量と次回加糖抜ききのタイミングのインフォメーションが表示されます。



プロトコル

コーヒーマシン操作中やクリーニング中のイベントとエラーのジャーナル。



プロトコル

リモートサービス

リモートサービスが有効になっていると、WMF サービスを直接コーヒーマシンに接続できます。各種設定とエラーの是正ができます。



リモートサービス

4.8 会計

カウンター

供給されたそれぞれの飲料のカウンターと合計飲料数が表示されます。

ジャーナルはUSB出力によって読みだすことができます。



三	会計				
	カウンター				
カツ	1	2	3	4	
カツ デ カフェ	2	2	2	2	
ポット 熱湯	1	1	1	1	
ミルク	2	2	2	2	

標準設定

カウンター 1 = 1日のカウンター

カウンター 2 = 1週間のカウンター

カウンター 3 = 1ヶ月のカウンター

カウンター 4 = 1年のカウンター



各カウンターを個別にマニュアルでリセット可能です。
(例:カウンター 1 = 毎日、カウンター 2 = 毎週)

ヒント

自動販売機

自動販売機として使用する際の取扱説明書を参照してください。

外部会計

ウェイト-会計取扱説明書を参照してください。

無料設定

無料設定は請求単位オプションと併せて使用可能です。

無料設定

すべて無料

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 無効

飲料は無料

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 無効

ディスプレイ表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここにテキストを表示できます。(例:「割引」)。入力されたテキストはヘッドラインに表示されます。

飲料ボタン表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここに飲料ボタン用テキストを表示できます。

4.9 PIN権限

下記のエリアではPINコードを設定できます。

- クリーニング
- 設定
- 会計



PINには序列が設けられています。

例えば、設定PINはクリーニングPINも兼ねますが、会計PINとしては無効です。

PINを割り当てないエリアは、PIN入力なしでアクセス可能です。PINを割り当てたレベルには、PIN入力なしではアクセスできません。

クリーニング PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 お手入れ



設定PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 お手入れ	 タイマー
 飲料	 システム
 操作オプション	 言語
 会計（「削除」なし）	 USB



会計PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 お手入れ	 PIN
 飲料	 タイマー
 操作オプション	 システム
 会計（「削除」あり）	 言語
	 USB



会計 PIN を使用して他の PIN 番号を両方変更できます。会計 PIN を忘れた場合、サービス担当者によってのみ PIN をリセット可能です。

新しいPINを入力

アクセス許可 PIN が割り当てられたら、ここに PIN 番号を入力して新しい PIN を発行します。



4.10 タイマー

時刻/日付

ここでは現在の日付と時刻を設定します。



時刻/日付

サマ-タイム

ここでは、サマ-タイムに自動で切り替えるかを設定できます。
 テレメトリモジュールが取り付けられていなければ、メニューを利用できます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☐ 無効

サマ-タイム

時刻帯

ここではタイムゾーンを設定できます。

時刻帯

タイマー

ここで、タイマー機能をオン・オフを切り替えられます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効

有効 タイマーの切り替え時間が有効になっています。

無効 タイマーの切り替え時間は作動しません。

タイマー

タイマー予定表とタイマーの設定

すべてのオン・オフ時刻の概要



タイマーの概要



スイッチを入れる時間の変更は日別表示でのみ可能です。

タイマー削除

削除マークで、あらかじめマークしていたタイマーを削除できます。



タイマー日別概要

日間・週間予定表を切り替えます。日別概要には、当日のスイッチを入れる時刻が表示されます。



タイマーの入る時間を設定

タイマーを介してスイッチを入れられる以下の機能があります。

- ボタンレアウト
- オン/オフタイマー
- クリーニングタイマー
- 操作モード



スイッチの入る時間の変更は過去に遡って適用はされず、変更を行った日時以降にのみ適用されます。

注意事項

- * 希望するタイマーの機能を選択します
- * 1日または複数の日にちを選択します
- * タイマー スイッチ時間を設定します

スイッチを入れる時間はあらかじめ選択された日にちに対して設定されます。

確定後は設定された切り替え時間による週間予定表が表示されます。個々の時刻はこの週間予定表の中で任意に変更できます。

ボタンレアウト

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

有効 ボタンレアウトをタイマーによって自動的に割り当てることができます。



ボタンレアウト

クリーニング タイマー

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

有効 タイマーを介して、自動システムクリーニングを開始できます。

システムクリーニングをタイマーで開始するための前提条件:

- ポットのノズルを押し込む必要があります。
- タイマー クリーニング は、セルフサービスモードの時間外にしなければなりません。

方法やその他の問い合わせ
▷お手入れ
▷タイマー クリーニング
70ページ

保管容器操作モード

タイマーにより時刻に応じた操作モードを決定できます。

例えば:

- 操作モード 2〜4 L 10時まで
- 操作モード 1〜2 L 10時から

ユーザー定義の操作モードが設定されている場合、ディスプレイ上でも選択肢として表示されます。



4.11 システム

フックレスディスプレイ

選択オプション: ライン、サークル、オフ

標準値: ライン



フックレスディスプレイ

ディスプレイと照明



ディスプレイと照明

照明

点灯色はここで設定します。
カラーサークルの三角形で希望の色を設定してください。
RGB数値による色の設定も可能です。

その他の選択オプション:

- 色の変更 ゆっくり
- 色の変更 標準
- 色の変更 速く
- オフ

ただちに現在の設定が表示されます。



供給可能な場合の照明

- 側板 標準色

イベントの表示 (通知)

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

例:メッセージ「コーヒー粉が空」。

有効 メッセージ 表示中、照明の調整ができます。

メッセージ (イベント) の照明

- イベント カラー側板

ハ° 祢の照度

ハ° 祢の照度はここで設定します。

ディスプレイ照度は自動的に減少

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値:  有効

有効 照度減少が「有効」になっていると、飲料供給から5分後にハ° 祢照度が自動的に減少します。

ハ° 祢の照度が暗くなっている状態でハ° 祢に一度タッチすると、再び選択された照度に戻ります。その後もう一度飲料供給ボタンにタッチすると、その飲料の供給が始まります。

タッチキャリブレーション

タッチハ° 祢のキャリブレーションを新たに行います。

ハ° 祢の背景

ここでは、タッチハ° 祢の色を希望する色に設定できます。

- メインハ° -ジ° の色
- その他のハ° -ジ° の色

スクリーンセーバー

ここでは、スクリーンセーバーの開始時間と周波数を有効化・設定できます。

マシンにあらかじめスクリーンセーバーを読み込んでおく必要があります。

▷ デジタルソリューション
64ハ° -ジ°

抽出アニメーション

ここでは、飲料供給中のアニメーションの表示時間を設定できます。

マシンにあらかじめ画像を読み込んでおく必要があります。

▷ デジタルソリューション
64ハ° -ジ°

浄水フィルター

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

有効 浄水フィルターが取り付けられています。フィルターの容量と水の硬度の入力が必要です。

フィルター容量

フィルター範囲(単位: リットル)はここで入力します。

硬度の計測

測定した水の硬度を $^{\circ}\text{dKH}$ 単位で入力します。

* 飲料水の水の硬度は、水道事業者に照会するか、付属品にあるWMF 炭酸硬度テスト(説明書付き)を使用して検出する

炭酸硬度テストキットはアクセサリと共に送られます。



水の硬度を不適切に設定してコーヒーマシンを運転すると、多くの故障が発生し、バルブの密閉性が失われるおそれがあります。これにより損害が生じても保証は適用されません。


浄水フィルター

注意事項

弊社は原則浄水フィルターの使用を推奨しております。適切な浄水フィルターの選択につきましては、担当のWMFサービスパートナーがご相談に応じます。

注意事項

総硬度の計測

ここには総硬度を入力します。

温度

水の設定温度-温度を表示。



挽き目設定

挽き目はディスプレイ上で設定します。

- 挽き目グレード-1
- 挽き目グレード-2

小さい値 -> 細挽き

高い値 -> 粗挽き

0.25ごとに設定可能です。設定ごとに最大で半分の挽き目を設定できます。各設定を終えたら豆挽きを行います。

教育を受けた専門社員およびサービス担当者のみ使用可能。

↓
挽き目設定

抽出圧表示

ここでは抽出圧表示を有効化できます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☒ 有効 ☐ 無効

↓
抽出圧表示

ホ-シヨ-

ここでは使用する豆とコーヒー粉の種類の名前を記録できます。

標準値: カフェ クリーム。

↓
ホ-シヨ-

グレード-2台接続のマシンに利用できます。

栄養成分情報

ここでは、グレード-ごとに栄養成分の量および材料に関する詳細情報を取得できます。概要が確認できます。

↓
栄養成分情報

ボタンズーム

キーズームを有効にすると、選択した飲料キーが拡大表示されます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: ☐ 無効


ボタンズーム

保管容器

ここでは、保管容器の一般設定が可能です。


保管容器

保管容器設定

- 操作モードの選択
- 目標量: 1～1.5リットル, 1.5～2リットル, 2～2.5リットル, 2.5～3リットル, 3～3.5リットル, 3.5～4リットル

保管時間の設定

ここでは、保管容器で保管する時間を設定できます。
設定した時間が経過すると、保管容器はコーヒーマシンの排水口を通して中身を空にします。
保管時間は最大240分です。



デジタルソリューション

リモートアクション

WMF CoffeeConnectで送られたパッケージメディアが直接インストールされていない場合は、ここで後から実行できます。

スマートリモート

WMFサービスはスマートリモートを有効化できますその後、この機能をここで有効化できます。

↓
デジタルソリューション

WMF CoffeeConnectから、リモートアクセスの各種オプションをご利用いただけます。

4.12 言語

パネル上で使用する言語を設定します。
使用できる言語が英語で表示されます。



4.13 USB

USB接続口からはデータの交換が可能です。
USB接続口は操作パネル裏側の左上の、カバーの背後にあります。



レシドをロードする

保存されたレシドがここで読み込まれます。

↓
レシドをロードする

飲料のマークをロードする

USBスティックから飲料の写真またはマークを読み込みます。

↓
飲料のマークをロードする

レジの保存

レジをコーヒーマシンからUSBへ転送します。


レジの保存

カウンターのエクスポート

カウンターをUSBへ転送します。


カウンターのエクスポート

HACCPエクスポート

実行されたクリーニングはプロトコルに記録され、ここにHACCP実施の証明としてエクスポートされます。


HACCPエクスポート

データのバックアップ

ここではマシンや飲料等のデータの設定情報が保存されます。


データのバックアップ

データをロードする

マシンのデータ、飲料のデータ等の保存されているデータはここでロードします。
(PINで保護可能)


データをロードする

言語をロードする

利用できる場合には、他のパシ言語をUSBスティックからコーヒーマシンにロードします。


言語をロードする

ファームウェアの更新

サービスエンジニア専用。


ファームウェアの更新

5 お手入れ

5.1 安全上の注意事項 お手入れ

コーヒーマシンが正常に作動し、コーヒの品質をいつでも最適なものにするためには、定期的なクリーニングは不可欠となります。



健康被害のおそれ/衛生面

- > 全ての衛生面の注意事項に従ってください。
- > HACCPクリーニングコンセプトに従ってください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 6ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- 使用停止中のコーヒーマシンの中で細菌が繁殖する恐れがあります。
- > 数日間運転を停止する場合、運転停止前と運転再開時にすべてのクリーニングを行ってください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 6ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- すべての洗剤はクリーニングプログラム用に最適に調整されています。
- > WMFのクリーニング剤およびカル슰除去剤だけを使用してください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 6ページ以降



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中に供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > コーヒーのノズルクリーニングの際にスプラッシュガードを設置します。
- > クリーニングを行う前に、コーヒーマシンのスイッチを切り、誤って飲料が供給されないようにします。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 68 °C 以降

5.2 クリーニング 頻度の概要

お手入れ					
毎日	毎週	定期的	メッセージ	オプション	
クリーニング プログラム					
X			X		システムクリーニング
X				X	クリーニング タイマー
手動クリーニング					
X					熱湯/スールの清掃
X					コーヒー供給口のクリーニング
		X		X	ドリップトレのクリーニング
		X			外装のクリーニング
		X			操作パネルクリーニング (クリーンロック)
X					コーヒーカス受けのクリーニング
X				X	コーヒーカスのシューターをクリーニング する
		X			コーヒー豆ホッパーのクリーニング



▷ 69℃ -ジ

▷ 70℃ -ジ

▷ 71℃ -ジ

▷ 71℃ -ジ

▷ 72℃ -ジ

▷ 72℃ -ジ

▷ 73℃ -ジ

▷ 73℃ -ジ

▷ 73℃ -ジ

▷ 74℃ -ジ

- 毎日 =最低毎日1回、必要に応じて随時
- 毎週 =毎週1回クリーニング
- 定期的 =必要に応じて定期的に実施
- メッセージ = パネルでの通知後
- オプション =オプション(装備により異なる)

5.3 クリーニングプログラム

5.3.1 システムクリーニング

システムクリーニングは全自動クリーニングプログラムです。クリーニング顆粒は顆粒計量装置から自動的に供給されます。合計で約20分かかります。

動画による説明
▷メインメニュー
▷お手入れ
▷説明



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中にコーヒー供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷68ページ以降



クリーニングプログラムはパネルによってシステムクリーニングの各ステップをガイドします。表示される通知に従ってください。

注意事項



- コーヒーのノズルクリーニングの際にスプラッシュガードを設置します。プログラムがディスプレイに表示されます。
- クリーニング顆粒のホッパーが空になっている場合、マシンは3回目のシステムクリーニングのメッセージが表示された後にロックされます。
- 計量装置のクリーニング顆粒が詰まった場合、WMF サービスにご連絡ください。

重要

タイマーの章にご注意ください
▷55ページ

5.3.2 クリーニングタイマー

システムクリーニングは、タイマーで自動的に開始、実行可能です。

タイマーコントロールでクリーニングを行う前に、必ず、下にスプラッシュガードがあることを確認してください。

- ・タイマークリーニングは、セルフサービスモードの時間外にしなければなりません。
- ・コーヒーのノズルクリーニングの際にスプラッシュガードを設置します。

クリーニングはタイマーで入力されたサイクル時間に開始します。



タイマークリーニング中、LEDサイドライトが点滅します。

タイマークリーニング中、ディスプレイに警告が表示されます。

ノズルからクリーニング液が排出される直前に、信号音が鳴り始めます。



ヒント

・スプラッシュガードを下におく

このテキストは、注意事項としてまたはプロンプトとしてのみ表示可能です。

・コーヒー受けを空にする

このテキストは、注意事項としてまたはプロンプトとしてのみ表示可能です。

5.4 手動クリーニング[®]

WMFお手入れ[®] ロケ[®]ラム用の注文
番号
▷ アクセサリーとス[®]ア[®]パーツ
93[®] - ジ

5.4.1 熱湯ノズルの清掃

熱湯ノズルは、念入りに清掃してください。この手作業による清掃での正しい排水については、クリーニング[®]手順で詳しく説明されています。

- * 熱湯ノズルを引き抜き、エアレーターのボルトを外す
- * お湯のノズルをクリーニング[®]液に浸ける(約30分)
- * 飲料水で入念に洗浄する



火傷のおそれ

- ・ クリーニング[®]を行う前に、コーヒーマシンのスイッチを切り、誤って飲料が供給されないようにします。
- > クリーニング[®]前にコーヒーマシンのスイッチを切ります。



注意

安全性についての章を参照
▷ 6[®] - ジ以降

5.4.2 コーヒー供給口のクリーニング[®]

コーヒーノズルは、念入りに清掃が必要です。この手作業による清掃での正しい排水については、クリーニング[®]手順で詳しく説明されています。

- * コーヒーノズルを引き抜く
- * コーヒーのノズルをクリーニング[®]液に浸ける(約30分)
- * 飲料水で入念に洗浄する



火傷のおそれ

- ・ クリーニング[®]を行う前に、コーヒーマシンのスイッチを切り、誤って飲料が供給されないようにします。
- > クリーニング[®]前にコーヒーマシンのスイッチを切ります。



注意

安全性についての章を参照
▷ 6[®] - ジ以降

5.4.3 ドリップトレのクリーニング



火傷のおそれ



- ドリップトレには高温の液体がたまっていることがあります。
- クリーニング後などでドリップトレを正しくはめ込んでいない場合、高温の液体で火傷を負うおそれがあります。
 - ドリップトレは慎重に動かしてください。
 - 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。
 - ドリップトレが正しく取り付けられているか、必ず確認してください。

- ドリップトレの前部外側を軽く持ち上げてドリップトレを外す
- ドリップトレを念入りに清掃すること
- ドリップトレを最後に清潔な飲料水でリンスする
- ドリップトレを乾かし、元の位置に装着

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷6ページ以降



手順
▷77ページ ▷お手入れ
36ページ以降

5.4.4 外装のクリーニング



- クリーニング中にパッド表面に傷をつけるおそれがあります。
 - 研磨剤の類はクリーニングで使用しないでください。
 - 苛性洗剤は使用しないでください。
 - クリーニングには柔らかい布を使用してください。
 - 湿らせたマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。

重要

保証の章に注意
▷88ページ以降

金属表面(マット加工)の手入れには、WMF Purargan® クリーナーの使用をお奨めします。

5.4.5 操作パ° 衤クリーニング° (クリーンロック)

※ **クリーンロック** をタッチする

15秒間のカウントダウンが始まります。

この間にタッチパ° 衤のクリーニング° を行ってください。

最後にタッチしてから15秒後に、タッチパ° 衤が再び有効になります。



火傷のおそれ

- 誤って飲料が供給されてしまうと、怪我のおそれがあります。
- クリーニング° の前には、必ず「クリーンロック」でタッチパ° 衤をロックしてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 68° -ジ° 以降



- クリーニング° 中にパ° 衤表面に傷をつけるおそれがあります。
- パ° 衤は必ず湿らせた布でクリーニング° してください。洗剤は使用しないでください。
- クリーニング° には柔らかい布を使用してください。
- 湿らせたマイクロファイバ° -クロスの使用をお勧めします。

重要

保証の章に注意
▷ 88° -ジ° 以降

5.4.6 コーヒー加受けのクリーニング° (挽いた豆のスライト / カップ ション)

※ コーヒー加受けを空にし、流水で洗浄する

※ 湿らせた布でクリーニング° する

※ コーヒー加受けは乾燥させてから再び設置する



- コーヒーマシンのシューターとドリッパ° トレイの目皿を毎日クリーニング° してください。
- 絶対に力を入れないでください! 破損のおそれがあります。

重要

保証の章に注意
▷ 88° -ジ° 以降

5.4.7 コーヒー豆ホッパーのクリーニング

コーヒー豆ホッパーは必要に応じて定期的にクリーニングしてください。推奨: 毎月1回。



怪我のおそれ

- 長い髪の毛や裾の長い服はグラインダーのヘッド部に巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
 - 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

⚠ 注意



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
 - コーヒーグラインダーや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。

⚠ 注意



- コーヒー豆ホッパーは絶対に食器洗い機で洗淨しないでください。

重要

※ 操作パネルを上に動かす

操作パネルの裏、右側にオン/オフスイッチがあります。

※ 信号音が鳴るまでオン/オフボタンを短く押す

※ 主電源からプラグを抜く

※ 豆ホッパーのロックを180°回し、開く

※ コーヒー豆ホッパーを持ち上げて外す

※ コーヒー豆ホッパーを完全に空にし、軽く湿らせた布巾で丁寧に汚れをふき取る



ロックを180°回す



6 HACCPクリーニング コンセプト

飲食店経営者には、来店するお客様が健康被害のおそれにさらされないことがないように、提供する食品への注意が法的に義務付けられています。

危険の認識・判定のため、HACCP (Hazard Analysis Critical Control Points) クリーニングコンセプトの導入が必要になります。このマシンの使用場所でリスク分析を行うようにしてください。分析の目的は、食品衛生面で危険な個所の確認と解消にあります。そのためにはモニター・検査工程を定め、実施する必要があります。設置状態が適切で、お手入れやメンテナンス、クリーニングが正しく行われている場合、WMFコーヒーマシンは上記の条件を満たした状態となっています。お手入れとクリーニングが決められたとおりに実施されていなければ、飲料の供給は食品衛生の観点から危険なポイントになります。

クリーニングの間隔は、取扱説明書、クリーニング手順、クリーニング計画に説明してある通りに守る必要があります。

「1997年8月5日 食品衛生指令」

日常のクリーニング評価に当社のHACCPクリーニングコンセプトをご活用ください。

HACCP輸出
▷ 65℃ - 70℃



インフォメーションパッド  からは前回のクリーニングのフローチャートを呼び出すことができます。

USBパッド  から、HACCPジャーナルをエクスポートできます。

ヒント

HACCPクリーニング コンセプト

月 年

クリーニング ステップ：

1. シェッドクリーニング の実行

▷取扱説明書(お手入れの章)
2. コーヒー熱湯/入 10の定期的な清掃

▷取扱説明書(お手入れの章)
3. 豆あがりの定期的な清掃

▷取扱説明書(お手入れの章)
4. 一般的なマシンのクリーニング

▷取扱説明書(お手入れの章)

□	クリーニング ステップ				署名
	1	2	3	4	
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					
11.					
12.					
13.					
14.					
15.					
16.					

□	クリーニング ステップ				署名
	1	2	3	4	
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					
31.					

7 メンテナンスと加圧除去

本コーヒーマシンは業務用のため、定期的にメンテナンスと加圧除去作業が必要となりますのでご注意ください。

メンテナンスは、マシンの実際の負荷と運転時間に応じて、メーカーのメンテナンス計画に沿って行ってください。マシンの設定によっては、指定のメンテナンスサイクルを守る補助として、パネルの通知を有効にすることができます。パネルに通知がない場合、少なくとも24か月ごとに安全関連部品を点検して、必要に応じて交換を行ってください。

コーヒーマシンは通知表示後も使用できますが、コーヒーマシンの機能異常や二次的な損傷を防ぐためにもお客様自ら早めにメンテナンスを行うか、メンテナンス作業の実施を依頼してください。

7.1 メンテナンス

安全点検を必要とするため、メンテナンスは、WMF サービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外には行わないでください。

サービス・メンテナンス通知
▶メッセージと注意事項
78ページ

7.2 WMF サービス

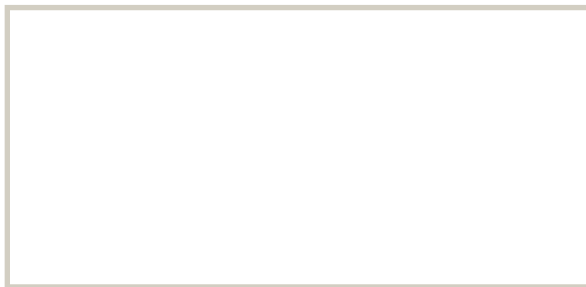
WMF サービスにつきましては、お近くの修理センターが不明な場合は下記にお問い合わせください。

重要!

メンテナンス、修理などにつきましてはお近くのWMF サービスまでお問い合わせください。電話番号はコーヒーマシンに貼ったラベルと納品書に記載されています。

WMF GmbH

WMF Platz 1
D-73312 Geislingen (Steige)



8 メッセージと注意事項

8.1 操作上の通知

コーヒー豆を補充

- ※ コーヒー豆おっぱい-を補充(表示参照)
- ※ 確認:
 - ・ コーヒー豆おっぱい-のロックが解除されていますか?
▷ お手入れ
 - ・ コーヒー豆がスラムズに落ちません。
- ※ 大きめのスプーンでかき回して  で確定する

給水してください

- ※ 水道の栓を開き、確認する

コーヒー加受けを空にする

- ※ コーヒー加受けを空にする

コーヒー加受けがありません

- ※ コーヒー加受けを再び正しく設置する

浄水フィルタを交換

- ※ WMF サービスに連絡
浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。

Iラ-は本取扱説明書で確認する

Iラ-番号の表示

▷ Iラ-通知と不具合

WMF サービスに連絡

Iラ-番号の表示

▷ Iラ-通知と不具合

サービスメッセージ

この通知がパネルに表示されると、サービス・メンテナンスが必要です。

- ※ WMF サービスに連絡

サービス通知は注意事項です。通常、コーヒーマシンはそのままお使いいただけます。

8.2 エラー通知と不具合

エラー通知が表示されたときや不具合発生時の基本的手順は次の通りです。

- * コーヒーマシンのスイッチを切り、数秒後もう一度スイッチを入れる
- * エラーが発生したときの操作を再試行

多くの場合、これによって不具合が解消され、正常に作動させることができます。

この操作で解消できなかった場合：エラー表示またはエラー番号をもとに以下の表を参照して対応してください。

それでも解消できないか表示されたエラーが記載されていない場合は、WMF サービスにご連絡ください。

通知の中には個別機能が停止するものがあります。この場合、飲料ボタンの照明が消えます。飲料ボタンが点灯している飲料では引き続き供給が可能です。

お使いのWMF 1500 F Internal Storageは、診断プログラムが搭載されています。発生したエラーはパッド上に表示されます。表示されるエラー通知は、原因の一つに主電源の異常も考えられます。

現在エラーが発生しているか、管理責任者への注意事項がある場合、パッド  が表示されます。

- *  をタッチする
エラー通知およびエラー番号が表示されます。

注意事項



コーヒーマシンはオン/オフボタンを押してから約 1 秒後に反応し、オになります。

不具合の解消のため(ソフトウェアのフリーズ など)、オン/オフボタンを長押しして制御システムの電源を切ってください。次に、コーヒーマシンの電源を入れます。

エラー番号	エラーの内容	対応
6	抽出装置で流れがブロック/抽出装置がスムーズに動作しない	* コーヒーマシンのスイッチを切ります
88	ボイラー: 温度過昇	* コーヒーマシンのスイッチを切り、冷めてから再びスイッチを入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
89	ボイラー: 加熱時間エラー	* コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
161	フロ-エラー: 抽出用熱湯	以下の各ステップ間では、毎回コーヒーマシンのスイッチを切ってから、再び入れてください。エラーが解消されない場合、次のステップを実行してください。 * グラインドの挽き目を粗く設定 ▷ソフトウェア▷システム▷挽き目設定、62° -ジ * 品質レベルを下げる ▷設定▷レベル、39° -ジ * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
162	フロ-エラー: クリーニング時	以下の各ステップ間では、毎回コーヒーマシンのスイッチを切ってから、再び入れてください。エラーが解消されない場合、次のステップを実行してください。 * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
188	加熱エラー	* コーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを抜く * WMF サービスに連絡

エラー番号	エラーの内容	対応
9678 9679 9619	右側のグライндаーが ブロックされている 左側のグライндаーが ブロックされている	 * コーヒーマシンのスイッチを切ります * 主電源からプラグを抜く * 豆ホッパーを取り出します * 必ずホッパー用マルチツールを使ってグライндаーディスクを反時計回りに回します (2本のピンがグライндаーのスロットに正しく差し込まれるようにすること) ▷お手入れ▷コーヒー豆ホッパーのクリーニング、74ページ * ホッパーを再びセットします * コーヒーマシンのスイッチを入れる よく起こることとして: * グラインドの挽き目を一段階粗めに設定 ▷ソフトウェア▷システム▷挽き目設定、62ページ
9039	ボイラー: 温度過昇	* コーヒーマシンのスイッチを切り、冷めてから再びスイッチを入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9041	ボイラー: 加熱時間エラー	* コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9055	強制クリーニング	* コーヒーマシンのクリーニングが必要です ▷お手入れ▷システムクリーニング、69ページ * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9063	豆ホッパーが空です	* 豆ホッパーにコーヒーの豆を補充してください
9076	水圧不足	* 給水栓を開ける * 水圧を安定させる
9133	クリーニング 顆粒計量装置が空です	* クリーニング 顆粒計量装置にクリーニング 顆粒を補充する

8.3 エラー通知なしの不具合

不具合図	対応
熱湯が供給されないのにコーヒーが受けに水がたまる	＊ 熱湯ノズルをクリーニング ＊ WMF サービスに連絡（コーヒーの供給は可能）
ポンプが連続作動し、コーヒーが受けに水がたまる	＊ コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる ＊ エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
コーヒー豆ホッパーをセットできない	＊ コーヒー豆ホッパーが誤ってロックされていないか確認 ＊ コーヒー豆がグライNDERとホッパーの間に挟まれているかを点検します

9 安全性と保証

9.1 コーヒーマシンに対する危険



取扱説明書を確認

注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
設置・使用条件を守ってください。

設置場所

- 設置場所には必ず乾燥した水の飛び散らない場所を選んでください。
- コーヒーマシンでは、常に多少の結露あるいは水が出てきます。
 - > コーヒーマシンを屋外で使用しないでください。
 - > コーヒーマシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
 - > 設置面への損傷を防ぐため、コーヒーマシンは必ず防水性があり、熱に強い敷物の上に設置してください。

重要

保証の章に注意
▷ 88°F -ジ°以降
設置・使用条件
▷ 18°F -ジ°以降

コーヒーマシンの技術的トラブルや損傷を避けるために、以下の注意事項に従ってください：

- 9 °dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF 浄水フィルターをご使用ください。WMF サービスが推奨する浄水フィルターを使用しないと、コーヒーマシンを破損するおそれがあります (カルキ付着など)。
- 安全を確保するために、業務終了時には必ず主電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。水道水接続がある機械の場合、水道のメインコックは閉じていなければなりません。
- 損傷を防ぐために、以下の対策を推奨します：
 - 水道に適切な水検出器を取り付ける
 - 煙感知器の取り付け
- 休みの (数日/数週間) 後でマシンの運転開始を再度行う前に、クリーニングプログラムを2回以上実行することを推奨します。

システム クリーニング
▷ クリーニング プログラム
69 ° - 71 °

9.2 ガイドライン

製造者: WMF GmbH, 73312 Geislingen (Germany)
本機はMRL (MD) 指令2006/42/EC、EMC 指令2014/30/EU および RoHS 2011/65/EU に関連する全ての指令に準拠しています。

上述の製造者はこのマシンがこれらのガイドラインに関連する全ての指令を遵守していることを宣言します。当社の許可なしに装置に変更や改造を加えると、この解説は有効性を失うものとします。技術関連資料の作成: WMF GmbH.

本機には適合解説書の原本が同梱されています。

本機にはCEマークが付与されています。

本機は現行のドイツ食品および飼料法記録 (LFGB)、ドイツ消費財条例 (BedGgstV)、EU10/2011、EC規則1935/2004に準拠しています。

適正な目的で使用する場合、本機による健康被害のおそれや、不当な危険はありません。

使用される材料および原材料は、ドイツ消費財条例および欧州委員会 (EU) 規則No.10/2011に準拠しています。

欧州以外の国ではその国で指定される条件が適用されます。

本機は電気電子機械廃棄物指令 (WEEE 2012/19/EU) により、一般廃棄物としての廃棄が禁止されています。

EC規則No. 1935/2004に準拠したトレーサビリティを確立し、EC規則No. 2023/2006に準拠した製造管理および品質管理に関する基準による製造を確実に行うことを、当社は保証いたします。



廃棄の際には、WMF サービスまでお問合せください。

連絡先
▷ 77th - ジ

管理責任者の義務、廃棄の章にご注意ください。
▷ 86th - ジ以降

9.3 管理責任者の義務

マシンの管理責任者は、WMF のサービス技術者、WMF の依頼を受けた技術者、またはその他の権限を有する技術者による定期的なメンテナンスと、安全に関する装置の点検を手配しなければなりません。

サービス領域へのアクセスが認められているのは、特に安全性や衛生面に関する本機の知識・経験が豊富なスタッフのみとなっています。

コーヒーマシンは、支障なくお手入れやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。

大容量の給仕を行う場合、コーヒーマシンの操作について訓練を受けた担当者がコーヒーマシンを監督する必要があります。トレーニングを受けたスタッフがお手入れ措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

マシンを使用する施設の電気設備と運転設備が使用地域の規定に準拠していることを、管理責任者は確認しなければなりません (ドイツ法的損害保険組合規定3など)。コーヒーマシンを安全にお使いいただくためには、特にセーフティバルブと圧力容器の定期的な点検が必要です。

これらの措置はWMFサービス、またはWMFが権限を与えたサービス技術者によって、メンテナンス作業の一環として行なわれます。

マシンクリーニングはWMFが備えているWMF専用のコーヒーマシン用クリーニング剤 (クリーニング顆粒) でのみ実施するようにしてください。

マシンの加圧抜きは、WMF サービスまたはWMF認定サービス担当者のみが行うことができます。

メンテナンスのサイクルと頻度につきましては製造者が定める内容 (メンテナンス) に従ってください。

WMF特殊加圧除去剤
▷アクセサリとスベアパーツ
93ページ

「残量センサー」オプションありのマシンには、BTLEセンサー用バッテリーが取り付けられています。このバッテリーを廃棄する際には個別に回収が必要です。

業務用コーヒーマシンの適切な廃棄方法についてご質問等ございましたら、販売店 (WMF子会社、WMF販売店、またはゲイスリンゲン (Geislingen) のWMF GmbH本社) までお問い合わせください。

コーヒーマシンを譲渡または廃棄される場合には事前に、CoffeeConnectプラットフォームにご登録の個人情報をお客様の責任で削除していただきますようお願いいたします。(データ保護)

旧装置を廃棄する前に、当該装置に保存されている個人データを消去してください。



廃棄の際には、WMF サービスまでお問合せください。

連絡先
▷77ページ

9.4 保証請求



取扱説明書を確認

- ・ 注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
- > 設置・使用条件を守ってください。

購入者への保証の有無と、購入者への保証がある場合の保証条件は、購入者と販売者の間の取り決めによって定められるものとします。本取扱説明書の指示を無視して損傷が起きた場合は、保証の対象とはなりません。

保証対象外となるのは：

- ・ 日常的な使用で消耗する部品全般。ここではパッドと抽出ユニットが該当します。
- ・ 天候の影響、ホイラーの加圧堆積、化学的/物理的/電気化学的/電氣的影響による不具合。
- ・ 現場の水の硬度により浄水フィルタの使用が必要であるにもかかわらず、浄水フィルタを使用しないで不具合に至った場合。
- ・ 本機の取り扱い、メンテナンス、お手入れに関する規定（取扱説明書やメンテナンス指示など）に従わなかったことにより生じた不具合。
- ・ WMF純正スパーパーツを使用しない場合や、マシンが購入者か第三者によって不適切に取り付けられている場合、あるいは不適切または充分な注意をとらなわなない取り扱いの結果として生じた不具合。
- ・ 購入者、または第三者によるWMFの許可を伴わない不適当なマシン修理、改造、調整の結果生じた不具合。
- ・ 取扱説明書に記述された用途以外の使い方をした結果生じた不具合。

重要

設置・使用条件
▷18° -ジ以降

重要

メンテナンス
▷77° -ジ

付録:テクニカルデータ

コーヒーマシンのテクニカルデータ

外寸	幅325 mm 高さ878 mm 奥行590 mm
コーヒー豆ホッパー	約1,100 g ⁽¹⁾ 中央コーヒー豆ホッパーは約700 g ⁽¹⁾
豆ホッパー、右	1,100 g ⁽¹⁾
保管容器容量	4リットル
空重量	約40 kg
水の供給	メインコックとフィルター（メッシュ幅0.08 mm）付き3/8インチのホース接続（現場側で用意）。 ⁽²⁾ 2 L/分の時の最小水圧0.2 MPa (2 bar)。 ⁽³⁾ 最高水圧0.6 MPa (6 bar)。 重要! 現地の水圧が0.6 MPa (6 bar) を超える場合には、最大0.6 MPa (6 bar) に設定されるよう、必ず減圧弁 ⁽⁴⁾ をあらかじめ作動させる必要があります。最大供給温度 35 °C。コーヒーマシン、直結給水接続用キットまたは新しい浄水フィルターと一緒に納品されるホースセットを使用する必要があります。使い古したホースは再使用しないでください。

予告なく仕様変更することがあります。

⁽¹⁾ カップ容量はコーヒー豆のサイズによって変化します。

⁽²⁾ コーヒーマシンの給水接続には本規格（IEC 60335-2-75）が適用されています。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしてはなりません。

⁽³⁾ 給水部セットと水フィルターを介して起きる圧力損失を考慮します。これにより、1時間あたりの最大出力に必要な機械側の水圧は6 L/分で0.2 MPa (2 bar) を確保できます。

⁽⁴⁾ **注意事項**



圧力調整の調整ルチンを機能させるため、機械接続部の前圧は6 L/分で2.4 bar必要です。これより圧力が低いと、圧力差が足りないため、設定値に応じて圧力調整を行うことができません。

水質	9 °dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF浄水フィルターをご使用ください。
排水パイプ (オプション)	ホースはDN 40以上、最低傾斜は2 cm/m
NNを超える高さでの使用	<2,000 m
定格消費電力	3.1 kW
電圧	200 V 50/60 Hz、(2/PE)
ヒューズ、設置現場	2 x 20 A
照明	LEDクラス 1
保護等級	IP X0
保護等級	IP 30
定格圧力	ボイラー 0.32 MPa (3.2 bar)
連続騒音レベル (Lpa)	<70 dB (A) ⁽⁵⁾
周辺温度	+5 °C ~ +35 °C (寒いときは凍結防止のため水抜き)。
最高湿度	相対湿度80%、結露なし。 屋外での使用は禁止。
設置面/水しびき	本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しびきがかからない場所に設置してください。水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

予告なく仕様変更することがあります。

⁽⁵⁾ コーヒーマシン操作スタッフ周辺の作業環境におけるA特性音圧レベルLpa (スロー)とLpa (インパルス) は、作動モードにかかわらず常に70dB (A) 未満です。

取り付け時の間隔	機能上、およびサービス・安全上の理由から、マシンの側面は壁もしくは非WMF製コンポネントから 50 mm以上離して設置してください。背面では 50 mm以上の安全距離が必要です。 コーヒーマシンの前に 800 mmの最小作業スペースを設けることを推奨します。製品ホルダーの上に 200 mm以上の空間を設けることを推奨します。設置面の上端から 1,100 mmの高さを確保する必要があります。 床の上端からの、設置面の高さは、700 mm ～ 900 mmにおさめる必要があります。コーヒーマシンの各種接続をマシン下からカウンターに通す場合、ライン敷設に必要なスペースに注意してください。敷設するラインによってマシン下の利用可能な空間が制限される場合があります。
浄水フィルタの取り付け寸法	浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。

予告なく仕様変更することがあります。

上記の電気接続基準と引用されている規格は、EU各国にてコーヒーマシンの接続規格として適用されます。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしてはなりません。

現場の電気設備は IEC 60364 規格に準拠して国が指定する規則に従い配備され、また、機銘板に記載される仕様情報に対応していなければなりません。

本機のそばの、支障なくアクセスできる場所に、単相電源の場合 Schuko プラグソケットが使用国の基準の単相ソケットを、三相電源の場合は、DIN EN 50310 VDE 0800-2-310 に準拠した 5 極 CEE/CEKON ソケットが使用国基準の多極ソケットを用意してください。プラグソケットはお客様側でご用意ください。主電源ケーブルが高温になった部品に接触しないようにお気をつけください。本機の主電源ケーブルが損傷した場合は、危険防止のために WMF サービスエンジニアが同等の資格を有するスタッフが交換を行ってください。

会計システムと接続して使用する場合、機械間の等電位化電流によって生じる可能性のあるデータケーブルのシールド線の不具合を防ぐため、追加の等電位化処理を行うようにしてください (DIN EN 50310 VDE 0800-2-310 を参照)。

マシンを大型のキッチンに設置する場合には、接地・等電位ボンディング用導体をマシンに取り付けることを推奨します。アース端子 (等電位ボンディング) の取り付けは、必要に応じて WMF サービスエンジニアが行います。

付録:アクセサリとスぺアパーツ

数量	単位	名称	注文番号	装備
コーヒ-豆ホッパ-一式				
1	個	スぺアキー	33 2071 8100	全て
1	個	豆ホッパ-のふた、中央	33 2887 3099	全て
1	個	豆ホッパ-フタ(右)	33 2925 5099	全て
1	個	豆ホッパ-、中央	33 2946 8099	全て
1	個	豆ホッパ-、右	33 2911 8099	全て
抽出装置				
1	個	抽出装置	03 2908 5099	全て
トリップ° グリッド° / トリップ° トレイ				
1	個	トリップ° トレイ	33 2633 7000	全て
1	個	トリップ° グリッド°	33 2633 8000	全て
アクセサリ/ツール				
1	個	トレンコック 115 mm	33 1750 3000	全て
1	個	トレンコック 166 mm	33 9885 5000	全て
1	個	トレンコック 340 mm	33 9838 3000	全て
1	個	パイプ° - クリーニング° (ス°ラッシュガード°)	33 2674 0000	全て
1	個	マルチツール	33 2408 4000	全て
WMF お手入れ° ロ° ラム				
1	パック	WMF専用クリーニング° 顆粒 (1,000 g)	33 2118 6000	全て
1	個	クリーニング° ブラシ	33 1521 9000	全て
1	個	パイプ° クリーナー	33 0350 0000	全て
1	チューブ°	WMF「パイプ° 用° グリ° リス」 Molykote	33 2179 9000	全て
1	個	お手入れキット	33 2888 2000	全て
やか用フィルター/浄水フィルター				
1	個	浄水フィルター AquaBasic M	03 9533 1000	水道直結
1	個	フィルターヘッド° (WMF AquaHead)	33 9532 0000	水道直結
1	個	WMF コネクションセット AquaHead	33 9532 1000	水道直結
書類および説明				
1	個	「WMF 1500 F Internal Storage取扱説明書」ト° キュメントセット	33 4512 5060	全て

索引

アクセサリとスベアパーツ 93
アニメーション 36
イベントの表示 21, 59
インフォメーション 50
エラー通知と不具合 79
エラー通知なしの不具合 82
エラー表示 46
オン/オフスイッチ 21
ガイドライン 85
カンター 52
カンターのエクスポート 65
カップ 容量 38
クリーニング PIN 54
クリーニング タイマー 58, 70
クリーニング プログラム 69
クリーニング 頻度の概要 68
クリーニング 顆粒ホッパー 21
クリーニング 35, 73
コヒーが受け 21, 28
コヒーが受けのクリーニング 73
コヒーが落とし (おしよ) 28
コヒーがラインダを選択 41
コヒーの品質 41
コヒーマシンに対する危険 83
コヒーマシンのスイッチを入れる 25
コヒーマシンのテクニカルデータ 89
コヒーマシンの各部名称 20
コヒー供給口 21
コヒー供給口のクリーニング 71
コヒー豆ホッパー 21
コヒー豆ホッパーのクリーニング 74
コヒー粉の量 40
サービス 50
サイド照明 21
サマータイム 55
システム 59
システムクリーニング 35, 69
スイッチ オフ 29
スイッチ オフ リス 36
スマートリモート 64
セルフサービスモード 45
ソフトウェア 30
タイマー 50, 55
タイマーの入る時間を設定 57
タイマー削除 56
タイマー 日別概要 56
タイマー予定表とタイマーの設定 56
タッチキヤリアレーション 60
タッチパッド 21
データのバックアップ 65

データをロードする 65
ディスプレイと照明 59
ディスプレイ照度は自動的に減少 60
テキストと画像 43
テクニカルデータ 89
デジタルリユース 64
ドリフトトレッキング 72
ドリフトトレイ 21, 29
パッドの照度 60
パッドの背景 60
パッド上の通知 31
ファームウェアの更新 65
フィルタ容量 61
プログラシディスプレイ 59
プロット 51
ボーション 62
ボーストセクション 47
ボタンズ 63
ボタナリアクト 47
ボタナリアクト (タイマー) 57
メーカーのロゴ 49
メインメニューの機能 31
メッセージと注意事項 78
メニューボット 21, 45
メニュー制御ボット 31
メンテナンス 77
メンテナンスと加圧除去 77
リモートアクション 64
レベルの変更 39
レベルの保存 37, 65
レベルをロードする 37, 64
ロゴ 49
ロック式豆ホッパー 27
安全上の注意事項 お手入れ 66
安全性 6
安全性と保証 83
一般的な安全上の注意事項 6
飲料 37
飲料キー 2つ目の豆タイプ 21
飲料キー コヒー 21
飲料キー 熱湯 21
飲料のキャピル 25, 48
飲料のマークをロードする 64
飲料アレレクション 48
飲料ボタン 32
飲料供給 25
栄養成分情報 62
温度 62
会計 52
会計PIN 54

外装のクリーニング 72
外部会計 52
概要 30
管理責任者の義務 26
機能バ - 34
供給オフ ション 38
供給テスト 37
供給可能な飲料 30
「供給可能な飲料」の画面 20, 21, 32
「供給可能な飲料」の画面の機能バ - 30
供給口の高さ調整 27
言語 64
言語の選択 34
言語バ - 選択 46
言語をロード する 65
言語選択 (国旗) 21
顧客口 (大) 49
工場出荷時設定で用意されている追加オフ ション 39
硬度の計測 61
仕上がり品質 41
使用目的 13
時刻帯 55
時刻/日 55
自動販売機 52
取り付け時の間隔 91
取扱説明書の記号とマーク 22
手動クリーニング 71
手動取り出し 34
序章 20
照明 59
浄水フィルター 61
浄水フィルタと加味除去 50
新しいPINを入力 54
水質 90
水道 89
水量 40, 42
設置・使用条件 18
設置面 90
設定 36
設定PIN 54
説明 36
前回の抽出 50
操作 24
操作オフ ション 45
操作に関する安全上の注意事項 24
操作バ - ネル 21
操作バ - ネルクリーニング (クリーンロック) 73
操作モード 58
操作上の通知 78
操作要素 45

総硬度の計測 61
抽出圧表示 62
抽出量の設定 - 保管容器 44
追加オフ ションの変更 40
追加物の削除 40
定格消費電力 90
特殊バ - 27
熱湯/バ - ル 21
熱湯/バ - ルの清掃 71
熱湯供給 26
挽き目設定 62
備考 43
保管時間の設定 63
保管容器 21, 63
保管容器からの飲料供給 26
保管容器設定 21, 33
保管容器設定 - セルフサービスモード 46
保管容器設定 - 標準モード 47
保証請求 88
保証対象外となるのは 88
無料設定 53
容量と供給オフ ション 38
用語集 23
淹れたて飲料供給 26

H

HACCPリスクポート 65
HACCPクリーニング コンセプト 75

P

PIN権限 53

U

USB 64

W

WMF サービス 77

お

お客様の口 49
お客様の口 をロード 49
お手入れ 35, 50, 66

シリーズ 1975 33 4512 5060 10.2023

お近くのWMF サービス:

© 2023 WMF GmbH

複製、配布、翻訳など全権利を保有します。書面による許諾なしに、当マニュアルの一部または全てを何らかの形で複製、電子システムを使用して処理、複写、配布することは固く禁じられています。

デザインと製作/テキストおよび構成:

TecDoc GmbH; Geislingen, info@tecdocgmbh.de

取扱説明書 (翻訳版) 日本国内で印刷。

予告なく仕様変更することがあります。

26.01.2024



DESIGNED TO PERFORM

wmf.com